

020

日欧で生産される
ワールド・スタンダード

ロゴ後継車

2001

5月

Illust. K,Yamanouchi

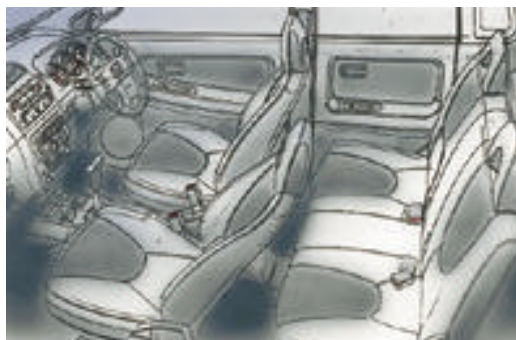


独

走っていたマイチに歯止めをかけ、コンパクトHBの主座に輝いたウィッツを追い、今度はホンダがワールドワイドなHBを発売する。シティ後継車として誕生したロゴに代わるホンダの意欲作で、日本だけでなく英国でも生産される。発売時期は当初予定よりも4カ月ほど前倒しされ、01年5月に登場することが決まっている。また、開発コードも「MK」から「MP」へと変わり、現在は「HG」と呼ばれている。

このロゴ後継車の特徴のひとつに、シビックと同じフラットフロアが挙げられる。燃料タンクや排気管の配置場所を再考した結果、ミニバン顔負けの低くて真つ平らなフロアが実現。その結果、現行キャバに近いミニバン調の内外装デザインを手に入れて、デビューすることになりそう。ホイールベースは現行比フ

リップポイントが高く、良好な操縦が得られそうな内装。シッフルにまどまるインパネは使い勝手もよいはず。



023



テリオス 改良

ストーリー同様、MCから1年が経過するのにともなって小改良が実施される模様。廉価グレードを中心に装備設定が見直され、一部ボディカラーが新色に差し替えられる可能性もある。また、先にMCが行われた軽乗用車群に続き、ハザードランプスイッチがヒーターコントロールパネル内に移植され、いちだんと使いやすくなる。

022



ストーリー 改良

新開発エンジンを搭載するなど、5月に大幅なMCが行われたため、発売時期は流動的だが、01年は小規模な改良が行われる程度にとどまる。ボディカラーの変更に加え、使い勝手の向上を狙ってハザードランプスイッチがステアリングコラム上からヒーターコントロールパネル内に移されるだろう。なお、トヨタ・デュエットにも改良が施される。

021

ヴィッツ TRDスーパーチャージャー



ネットカップの名称でヴィッツだけのワンメイクレースが開催されている。スーパーチャージャー車はTRDの名を掲げて登場する。

b

Bにスーパーチャージャー搭載車がラインナップされた後、ヴィッツにも同じエンジンユニットが採用される。すなわち、1NZ-FE型にスーパーチャージャーが加えられ、パシチ力のある走りをもたらされるだろう。

bBと異なり、ヴィッツはTRDの名称を掲げ、限定1000台のみが販売される。もちろん、内外装や足まわり(サスペンションなど)もTRDの名に恥じないレベルまでチューンナップされるといふから楽しみだ。

21世紀ニューモデル



024

電動オープン
トップも備える
ラグジュアリー
クーペの最高峰

Photo. EDITORIAL NETWORK



ソアラ

擬装なしで最終テストにいそしむレクサスSC430。V8エンジン、電動メタルトップやエクステリア色の本革シートなど、最高峰クーペにふさわしい装備がたっぷり盛り込まれている。



じ

つに10年ぶりにFMCが行われ、4代目にバトンタッチを果たすソアラ。その容姿はすでに明らかになっているように、99年の東京モーターショーに参考出品されたレクサス・スポーツクーペに準じる。北米ではSC430の名で1月から販売がスタートするため、それに合わせて1月8日から関東自動車工業での生産がス

ターゲットする。

一方、国内向けの発売時期は5月が濃厚。一時期ウワサされたネーミング変更もなく、ソアラのネーミングを継承することが確認できた。搭載エンジンはセルシオと同じ4・3V8で、電動メタルトップもショーモデルから踏襲される。なお、スクープレは右ハンドル仕様のソアラを撮影することに成功。ナマ写真を64ページ以降に掲載しているの併せてご覧いただきたい。

025

XVL

新世代FR-Lシャーシ
採用するローレル&
スカイライン統合車

モーターショー出品車の完成度が高かっただけに、大きく変わることなく登場しそう。ローレルとスカイラインは移行期間を経てモデル廃止となる。

社

内呼称「MF」が与えられているXVLは既報のとおり、ローレルとスカイラインを統合するFRセタンだ。新世代FR-Lプラットフォームが採用され、V6エンジンを搭載。すでに生産試作も組み付けられ、量産に向けてのツメが行われている。5月にFRモデルが登場した後、

盆明け8月には積雪地ユーザーをターゲットにした4WD車もデビューする。さらに、02年2月をメドにエクストロイドCVT搭載車もラインナップされ、パリエーションが拡大していく。



ソアラ完全ナマ写真は64ページに掲載！

21世紀ニユル
SCOOOP▶▶▶
1200連発

スクープ班が捕らえたワゴンRプラスのテストカー。縦線基調のグリルとメッキモール、そしてサンルーフが目新しい。



027

Photo: EDITORIAL NETWORK

028

アコード／トルネオ 改良



高い期待が寄せられていた「ユーロR」があまり盛り上がりを見せないまま、モデルライフ後半に突入しているアコード／トルネオ。定例の年式変更で01モデルに切り替わるが、大きな変更点はないようだ。例によって一部ボディカラーが差し替えられる程度だろう。ディーラー独自の特装お買い得モデルが販売されるケースが多くなりそう。

029

ランサーセディア 改良



ワゴンの登場が遅れたため、デビュー時期は流動的だが、発売1年後の改良で詳細が見直される可能性あり。不人気色がラインナップから外され、量販グレードの装備が充実するかも。また、ボーナスシーズンや決算期には低価格グレードに特別装備が盛り込まれたお買い得仕様車が登場し、販売増と話題喚起が図られるだろう。

030

ギャラン／アスパイア／レグナム 改良



年式改良ではボディカラーが新色に差し替えられ、目新しさが引き出される。同時にグレード展開も縮小され、グレード数がしぼられるかも。2.4エンジンをグランディスと同じGDI-Vに換装して平成12年基準排出ガス25%低減レベルを達成か。

031

レガシィ 改良



モデルライフ後半に突入するため、追い上げを図るライバル車に負けないだけの商品力を保つ目的で小改良を実施し、ボディカラーと一部グレードの装備設定を手直し。廉価グレードをベースにした特別仕様車は引き続き恒常的に販売されていくだろう。なお、発売時期は6月にズレ込む可能性もあるが、大幅に遅れることはないと思われる。

032

エブリイ 改良



アルトやワゴンRに先がけてMCで外観がリフレッシュされたため、次の年式変更は一部改良にとどまる模様だ。東京モーターショーに参考出品されたエアロモデル「SV」が新たに加わり、同時にアビリティに追加されるはず。OEM版のマツダ・スクラムもほぼ同時に小改良を実施。

最新情報によると、もっとシンプルな外観デザインに仕上がっており、セルシオにそっくりだという「プレビス」。ユーロ・テイストが強いようだ。

Illust. K.Yamanouchi



ワゴンRプラス

改良

改良と関係あるかどうかは定かではないが、スクープ班では顔違いのワゴンRプラスを発見。フロントグリルが縦線基調になっており、ボンネットにもメッキモールが装着されている。また、現在は非設定のサンルーフも確認できるが、左ハンドル車なので輸出専用モデルなのかも。

海

の向こうではオペル・ブランド、そして日本国内ではシボレー・ブランドでも販売されているワゴンRプラス。早ければ5月にも恒例の年式改良が実施され、各グレードの装備設定や一部ボディカラーが見直されるだろう。

033

ついに正式名称決定！
ビスタ店のみで販売か？

プログレ 派生車

プレビス

プ

ログレをベースに開発されている「290N」。そのコンセプトはプログレとアルテッツァの間に位置するスモール・ラグジュアリー4ドアで、プログレほど演歌調でもなければ、アルテッツァほどガキっぽくもない。まるでセルシオをダウンサイジングしたようなユーロ・テイストが強い雰囲気だという。

その「290N」に関する新事実が発覚した。ズバリ、正式ネーミングが「プレビス」に決定。スクープ班が調べたところ、すでに「プレビス・PREVIS」の商標登録も済まされていた。先ごろ、社内でもそのモックアップが披露され、好評を博したそう。

プログレ同様、

いまのところ、輸出販売される予定はなく、完全な国内専売車として登場する。すでにトヨペット店にはプログレが、ネット店にはアルテッツァが存在するため、取扱販売チャネルはクレスタが消滅するビスタ店のみになる可能性が高い。さらなる続報に乞う期待！



2001/1

これは、ダミー原稿です。いない場合は削除してください。これは、ダミー原稿です。いない場合は削除してください。